

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	66人	算数	66人	理科	66人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	72人	算数	72人	理科	73人
------	----	-----	----	-----	----	-----

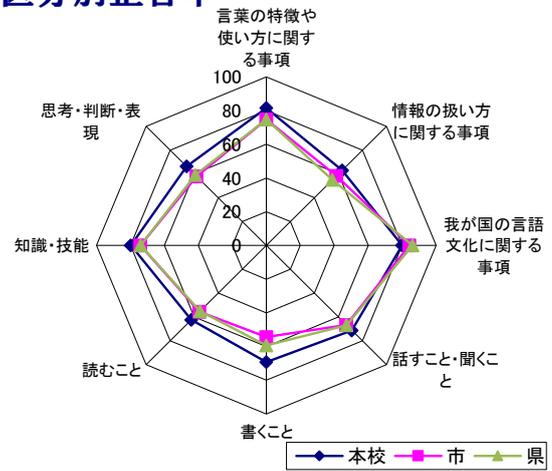
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	81.5	74.7	74.8
	情報の扱い方に関する事項	63.1	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	80.0	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	71.2	66.7	66.9
	書くこと	69.2	54.3	59.3
	読むこと	62.5	55.6	55.2
観点	知識・技能	79.7	74.1	74.0
	思考・判断・表現	66.4	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

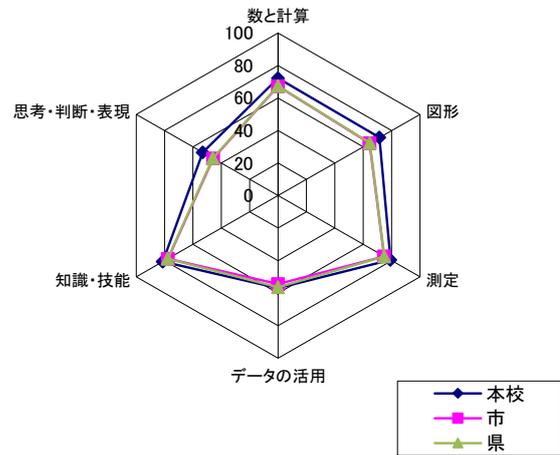
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○平均正答率は、県の平均を6.7ポイント上回っている。 ●指示する語句の役割についての問題は県・市の平均を下回っている。	・物語や説明文を読む際に、指示語に線を引かせるなどして、何を示すかを意識させるような指導を行う。 ・日常生活の中で漢字を使用できるように、指導を継続する。
情報の扱い方に関する事項	○平均正答率は、県の平均を8.1ポイント上回っている。 ○国語辞典の使い方をしっかりと理解している。	・分からない言葉を国語辞典で調べる習慣を身に付けることで、国語辞典を使うことに慣れさせる。
我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は、県の平均を6.1ポイント下回っている。	・漢字を学習する場面において、読みと書きだけでなく、部首や成り立ちなどについても扱うようにする。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、県・市の平均をやや上回っている。 ●他者の考えをまとめる問題で無回答が多く、県・市としても正答率5割を割っている。	・学校生活の中で話し合い活動を充実させたり、他者の意見をまとめたりする内容を、授業で取り入れたりとしていく。
書くこと	○平均正答率は、県の平均を9.9ポイント上回っている。 ○指定した長さで答える問題や考えを明確にして文章を書く問題の正答率が良好であった。 ●2段落構成で文章を書く問題の正答率は、県・市の平均を上回っているものの、55.4%に留まっている。	・主語や述語、接続詞を意識させる指導を続け、自分の考えを友達に分かりやすく記述させるような学習活動を行っていく。その際、意見や理由を段落に分けさせるようにし、常に意識できるようにする。
読むこと	○平均正答率は、県の平均を7.3ポイント上回っている。 ○叙述を基に文章の内容を捉えることができている。 ●登場人物の気持ちについて答える問題では、県・市の平均を若干下回った。	・登場人物の気持ちを表す語や文を見付けたり、それをもとに気持ちを考えたりする学習を継続して行っていく。

宇都宮市立陽東小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.2	67.3	67.4
	図形	71.4	64.5	64.7
	測定	79.2	74.7	74.9
	データの活用	56.9	54.4	56.4
観点	知識・技能	81.3	77.6	77.8
	思考・判断・表現	53.2	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

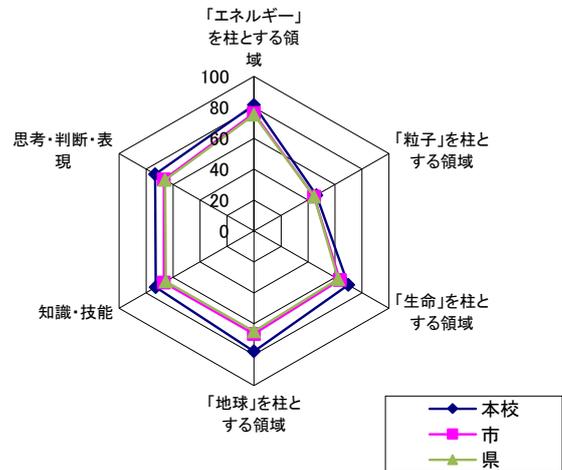
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率は、県・市の平均を5ポイント程度上回っている。</p> <p>○数直線上に示された分数を読み取る問題では、県の平均を13ポイント以上上回っている。</p> <p>○文章問題を解くために除法の立式をする問題では、県の平均を15ポイント以上上回っている。</p> <p>○無回答率は、県・市の平均と比べ低い。</p> <p>●3けた+3けた=4けたの計算をする問題の正答率は、県の平均を4ポイント下回っている。</p>	<p>・基礎学力を定着させられるよう個別指導を充実させる。</p> <p>・今後も、Aドリルや繰り返しドリルを解くだけでなく、様々な形式の問題を継続して学習することで基礎的な計算力を更に身に付けさせる。特に短答形式の問題にも慣れさせていく。</p>
図形	<p>○平均正答率は、県・市の平均を7ポイント上回っている。</p> <p>○円の中心とコンパスの使い方について正しいものを選ぶ問題では、県の平均を10ポイント以上上回っている。</p> <p>○●コンパスを使って正三角形が作図できることを説明する問題では、県の平均を11ポイント以上上回っているが、5割に満たない低い正答率である。</p>	<p>・円や球の直径や半径など、基本的な事項を確認し、基礎学力を定着させる。</p> <p>・コンパスや三角定規を使った作図の反復練習を今後も継続することで技能の定着を図ると共に、知識の向上も目指す。</p>
測定	<p>○平均正答率は、県・市の平均を4ポイント程度上回っている。</p> <p>○身近なものの重さの単位についての問題では、県の平均を6ポイント上回っている。</p> <p>●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題では、県・市の平均を上回っているが、5割程度の低い正答率である。</p>	<p>・生活と結び付けながら、距離や長さ、重さを意識する場面を多く取り入れて、そのイメージをもたせ、理解させる。</p>
データの活用	<p>○平均正答率は、県・市の平均をやや上回っている。</p> <p>●1目盛りの数が異なる2つの棒グラフを読み取る問題では2割の正答率で、県の平均も3.6ポイント下回っている。</p>	<p>・他教科との関連も意識しつつ、様々な目盛りの棒グラフに触れさせることにより、グラフを読み取る力を更に育てていくとともに、目盛りの読み取りにもつながるテープ図や数直線を、授業の中で積極的に活用していく。</p>

宇都宮市立陽東小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	81.5	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	46.2	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	69.8	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	77.9	66.6	64.9
観点	知識・技能	72.9	66.8	65.4
	思考・判断・表現	73.3	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○平均正答率は、ほとんどの問題で県の平均を上回っている。</p> <p>○光の性質の問題では、実験の結果として適切な記録を選ぶ問題で、県の平均を15.1ポイント上回っている。</p> <p>○風やゴムのはたらきの問題では、ゴムをのばす長さや車の動く距離の関係からゴムをのばす適切な長さを推測する問題で、県の平均を14.3ポイント上回っている。</p> <p>●磁石の性質の問題では、鉄くぎが磁石になったことを確かめる方法を選ぶ問題で、県の平均を5.9ポイント下回っている。</p>	<p>・実際に実験をすることで子供たちの理解が深まるので、実験を一つ一つ丁寧にやるのが大切である。実体験を通して、一人一人の理解につなげていきたい。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○平均正答率は、県の平均とほぼ同程度である。</p> <p>○物の重さの問題では、同じ種類の木でできている積み木を答える問題で、県の平均を8.4ポイント上回っている。</p> <p>●姿勢を変えて測った体重がどのようになるかを考える問題の正答率は6.2%で、県の平均を3.7ポイント下回っている。</p>	<p>・実際に実験をしたものを他のものに応用して考える力が付いていないので、目の前のものについてだけでなく、既習事項を使って他の例についても考えさせることで、本質的な理解につながるようにしていきたい。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○平均正答率は、県の平均を7.5ポイント上回っている。</p> <p>○チョウの育ち方の問題では、アゲハが卵を産み付ける場所を選ぶ問題で、県の平均を17.6ポイント上回っている。他にも昆虫に関する問題は、10ポイント程度県の平均を上回っているものが多い。</p> <p>●虫眼鏡の正しい使い方を選ぶ問題の正答率は18.5%と低く、県の平均も4.1ポイント下回っている。</p>	<p>・生き物を扱う単位では、実際に採集したり飼育したりして実物と触れ合うことを、今後も大切にしていきたい。</p> <p>・実験器具の使い方については、正しい使い方を毎回確認し、繰り返し経験させ、身に付けさせる。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○平均正答率は、県の平均を13ポイント上回っている。</p> <p>○温度計の使い方を選ぶ問題の正答率は、県の平均を20.3ポイント上回っている。</p> <p>○太陽の位置の変化を方位で答える問題の正答率は、県の平均を22.2ポイント上回っている。</p>	<p>・天体の分野は児童が理解しにくいので、方位や太陽の動き、影のできる場所について今後も実験を丁寧に行い、児童の理解につなげていきたい。</p>

宇都宮市立陽東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学校での様子についての肯定的な回答に関して、「毎日の生活が充実している」では8.4ポイント、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」では8.4ポイント、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」では9.5ポイント、「クラスは発言しやすい雰囲気である」では8.0ポイント、県の平均を上回っている。授業の中で、児童が積極的に友達と話し合う活動に取り組み、友達と学び合うことを通して、充実した学習活動が行われていると言える。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定的な回答が78.5%であり、ト県の平均より13.1ポイント高かった。クラスに自分の居場所があり、存在意義を感じながら生活している児童が多いと言える。

○自分自身のことについて、「自分にはよいところがあると思う」の肯定な回答が89.2%で、県の平均を8.5ポイント上回っている。また、「人と話すことは楽しい」では95.4%、「誰に対しても思いやりの心をもって接している」では95.9%、「自分も持っている能力を十分発揮したい」では92.3%と、肯定割合が高い。自己肯定感が高く、人との関わりを大切にしていることが伺える。

○教科の学習について、国語、社会、算数、理科において、「授業の内容はよくわかる」「好き」の肯定割合が、県の平均を上回っている。学習に対して前向きに取り組んでいる児童が多いと言える。児童の学習への意欲をさらに高めるような授業を工夫していきたい。

●家庭での学習について、「授業の復習をしている」「テストでまちがえた問題について勉強している」「決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」「だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の肯定的な回答の割合が、県の平均を10ポイント程度下回っている。また、家で勉強する時間について、「平日1時間より少ない」と回答した児童が66.3%、休日1時間より少ない」と回答した児童が58.4%だった。家庭学習の仕方や内容、時間について指導していきたい。

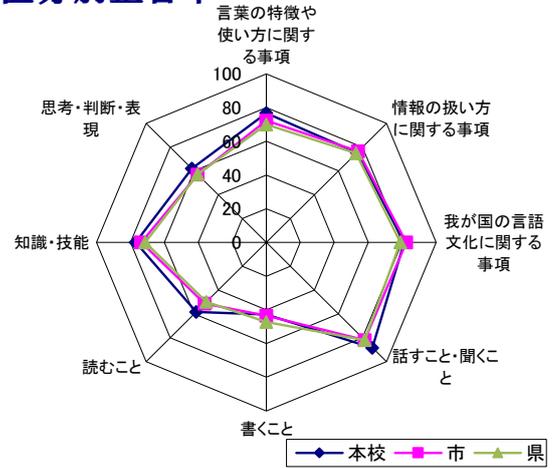
●読書について、「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」の設問では、「10分～30分」「全くしない」と回答した児童の割合が県の平均を上回っている。また、「2時間以上」と回答した児童の割合が県の平均を下回っている。図書室で本を借りる時間や読書の時間を多く設けていきたい。

●テレビやDVDや動画、ゲームにの時間については、県の平均より長い。「テレビやDVDや動画を平日2時間以上見る」と回答した児童が63.1%、「ゲームを平日2時間以上する」と回答した児童が44.6%だった。家庭での時間の使い方について、保護者と連携しながら指導していきたい。

宇都宮市立陽東小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	76.7	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	75.4	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	81.2	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	88.4	81.9	82.0
	書くこと	42.8	43.5	47.2
	読むこと	58.3	51.4	49.8
観点	知識・技能	76.9	73.6	71.3
	思考・判断・表現	62.0	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

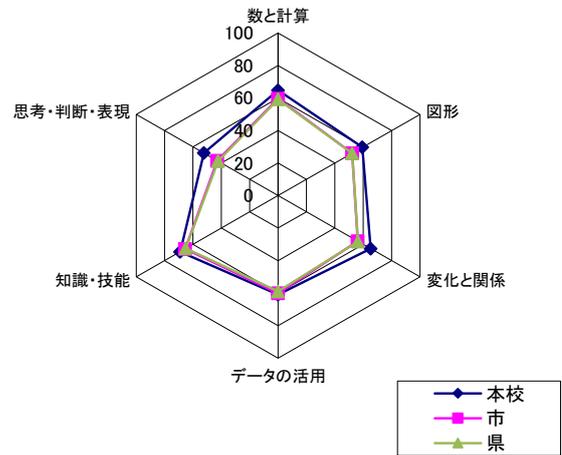
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○平均正答率は、県の平均を6.7ポイント上回っている。 ○漢字を書く問題は、県の平均を大きく上回っているものが多い。 ●様子を表す語として適する語を選ぶ問題は、県・市の平均をやや下回っている。	・既習の漢字を使う場面を増やし、正しく書けるような指導を継続する。 ・学校や家庭で積極的に国語辞典を活用するなどして、語彙力を高める。
情報の扱い方に関する事項	○平均正答率は、県・市の平均とほぼ同程度である。	・学校や家庭で、積極的に漢字辞典を活用させる。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は、県・市の平均とほぼ同程度である。	・宮っ子ダイアリーのことわざコーナーなどを資料として活用し、学校生活の中で、日常的にことわざに触れる機会を作る。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、全ての問題で県・市の平均を上回っている。 ○互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる問題では、県の平均を11.3ポイント上回っている。	・話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えられるよう、話し合い活動の聞き取りを充実させていく。
書くこと	●平均正答率は、県の平均を4.4ポイント下回っている。 ●指定された長さで文章を書く問題や、段落を活用した作文問題の正答率が低い。 ○内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書く問題の正答率は県の正答率を若干上回っている。	・教科に関わらず、学習課題に対する自分の考えを記述することを重視したい。その際、文字数や段落数を指定するなど、条件に合わせて書く力を高めたい。
読むこと	○平均正答率は、県の平均を8.5ポイント上回っている。 ○登場人物の気持ちの変化について、複数の叙述を結び付けて具体的に想像する問題では、県の平均を11.6ポイント上回っている。	・朝の読書や図書室を活用することで、読書習慣を身に付けるとともに、今後も様々な書物に触れる機会を多く設定していく。

宇都宮市立陽東小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.8	59.7	59.2
	図形	59.4	52.1	52.1
	変化と関係	65.2	56.1	56.3
	データの活用	60.9	60.1	58.9
観点	知識・技能	69.0	65.5	65.1
	思考・判断・表現	52.3	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

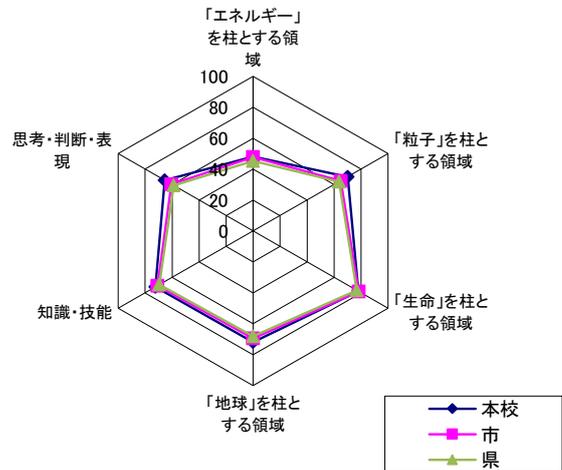
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率は、県の平均を5.6ポイント上回っている。</p> <p>○数直線をもとに異分母分数の大小関係を答える問題では、県の平均を13.3ポイント上回っている。</p> <p>○式の意味を、言葉で説明する問題では、県の平均を11.3ポイント上回っている。</p> <p>●小数を集めた数を答える問題では、県の平均を4.2ポイント下回っている。</p>	<p>・個別指導を充実させ、基礎学力を定着させる。</p> <p>・AIDリルや繰り返しドリルを解くだけでなく、様々な形式の問題を学習をすることで、基礎的な計算力を身に付けさせていく。</p>
図形	<p>○平均正答率は、県の平均を7.3ポイント上回っている。</p> <p>○180度より大きい角の大きさを求める問題では、県の平均を20ポイント程度上回っている。</p> <p>○複雑な図形の面積の求め方の問題では、県の平均を14ポイント程度上回っている。</p> <p>●面積の単位の関係を説明する問題では、3割弱の正答率であり、県の平均もわずかに下回っている。</p> <p>●ひし形の作図の問題でも、県の平均をわずかに下回っている。</p>	<p>・コンパスや三角定規を使った作図の反復練習をすることで、技能の定着を図る。</p> <p>・単位の関係を表した掲示物を教室に掲示する。</p>
変化と関係	<p>○平均正答率は、県の平均を8.9ポイント上回っている。</p> <p>○2つの数量の関係を、もとの大きさをふまえて説明する問題では、県の平均を14.5ポイント上回っている。</p> <p>○●伴って変わる2つの数量の問題では、県の平均を12.7ポイント上回っているが、4割以下の低い正答率である。</p>	<p>・2つの量の変わり方の表の見方は定着してきているので、そこから式を立てて、もう一方の値を求める方法も指導していく。</p> <p>・考えたことを自分の言葉で説明する機会を意図的に設けることで、説明する力を養わせる。</p>
データの活用	<p>○平均正答率は、県・市の平均とほぼ同程度である。</p> <p>○2つの折れ線グラフから必要なことを読み取る問題では、県の平均を5.2ポイント上回っている。</p> <p>●二次元表の読み方についての問題では、正答率が2割以下と低く、県の平均も3.5ポイント下回っている。</p>	<p>・他教科との関連を意識し、グラフや統計資料の読み取りでも、積極的に算数での学習内容を活用していく。</p> <p>・二次元表の見方をもう一度確認し、他教科や学校生活の様々な場面で活用して、その有用性を改めて確認していく。</p>

宇都宮市立陽東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	48.1	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	70.1	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	78.0	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	71.9	69.5	68.1
観点	知識・技能	72.4	70.8	69.5
	思考・判断・表現	65.6	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、県の平均とほぼ同程度である。 ○電流が大きくなる回路を選ぶ問題の正答率は61.4%で、県の平均を7ポイント上回っている。 ●簡易検流計の針のふれ方から分かることを答える問題で、県の平均をやや下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に目で見えるものは理解できても、電流の向きと大きさなど目に見えないものへの理解が難しいので、自分の予想や結果を自分の言葉でまとめる学習を積み重ねることで、一つ一つ理解できるようにする。
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、県の平均を7.5ポイント上回っており、全ての問題で県の平均を上回っている。 ○水と空気をあたためたときの体積変化についての問題で、県の平均を9.6ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験をきちんと行うことで、理解の定着が図られるので、今後も実験を丁寧に行い、自分の予想や結果を自分の言葉でまとめることができるように指導していく。
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、県の平均とほぼ同程度である。 ●腕を曲げた時の筋肉の様子を答える問題の正答率は68.6%で、県の平均を6ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実感を伴った理解ができるよう、実際に観察したり体を動かしたりしながら、言葉と状態を結び付けていく。
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、県の平均とほぼ同程度である。 ○天体の分野では、全ての問題で県の平均を上回っている。特に星の並び方と見える位置についての問題の正答率は、県の平均を9.9ポイント上回っている。 ○流れる水についての問題では、水の流れと地面の傾きの関係を正しく記述できており、県の平均を20.4ポイント上回っている。 ●水のすがたについての問題では、県の平均を約8ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天体を扱う問題では、動画等を活用しながら、今後も空間をイメージしやすくなるような授業を心掛ける。 ・身の回りの自然現象や科学的事象について、言葉と結び付けながら理解できるようにし、普段から自然との関わりを意識させるようにしていく。

宇都宮市立陽東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「本やインターネットを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」の肯定的な回答が71.4%であり、県の平均を7ポイント上回っている。一人一台端末を使いこなし、必要な情報を集めたり、問題に取り組んだりすることができる。

○「むずかしい問題にであると、よりやる気が出る。」の肯定的な回答が61.5%であり、県の平均を7.6ポイント上回っている。児童の興味を惹く発問になるよう工夫するなどした成果が表れている。今後も児童の好奇心の高さが維持されるよう、発問や学習課題を工夫していきたい。

○「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている」の肯定的な回答が88.6%であり、県の平均を5.9ポイント上回っている。また、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定的な回答が94.3%であり、県の平均を6.8ポイント上回っている。話し合いをしたり意見を発表したりする場を意図的に設定したり、話しやすい雰囲気作りに努めたりしたことが成果となって表れている。

○「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている。」の肯定的な回答が75.7%であり、県の平均を5.2ポイント上回っている。また、「算数の授業で問題のとき方や考え方が分かるようにノートに書いている。」の肯定的な回答が92.8%であり、県の平均を8.4ポイント上回っている。自分の考えをノートに書かせたり、問題解決型の活動に取り組ませたりしてきた成果が表れている。今後も継続していきたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」の肯定的な回答が60%であり、県の平均を11.6ポイント下回っている。また、「家で学校の宿題をしている。」の肯定的な回答が90%であり、県の平均を6.4ポイント下回っている。「家で授業の予習をしている。」の肯定的な回答が41.5%であり、県の平均を10.9ポイント下回っている。「家で勉強するときに、だいたい同じ時近くに取り組むようにしている。」の肯定的な回答が、50%であり、県の平均を16ポイント下回っている。学級懇談や学年だよりなどでの啓発を行ったり、学習計画を立てさせたりして家庭学習の習慣の定着を図りたい。

●「毎日、同じくらいの時近くにねている」の肯定的割合が72.8%であり、県の平均を7.4ポイント下回っている。また、「早ね、早起きを心がけている」の肯定的割合が61.5%であり、県の平均を14.4ポイント下回っている。さらに、「時間を上手に使うことを、心がけている」の肯定的な回答が71.4%であり、県の平均を6.5ポイント下回っている。規則正しい生活ができていない児童が多い傾向にある。学級活動や朝の会・帰りの会での問題提起、規則正しい生活の呼び掛けを行ったり、保健だよりで啓発をしたりするなどの活動を、重点的に行っていくたい。

●「家でのきまりや約束を守っている」の肯定的な回答が75.7%であり、県の平均を13.2ポイント下回っている。学級懇談や学年だよりなどでの啓発を行っていくたい。

宇都宮市立陽東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・ペア学習やグループ学習を中心とした学び合い	・様々な授業の中で、ペア学習やグループ学習での学び合いの場を意図的に設定する。	・「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」についての肯定割合は、4年生で県の平均よりも9.5ポイント、5年生で6.8ポイント高かった。
・ICT活用による主体的に課題解決できる児童の育成	・Googleツールを活用した協働的な学びの実践。学習に対して困り感のある児童に対する個別支援や様々な授業における、目的に応じた学習方法や学習環境の工夫。	・「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」についての肯定割合は、5年生で県の平均よりも7ポイント高かったが、4年生では7ポイント低かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」に肯定的に回答した児童の割合は、4年生は県の平均とほぼ同程度だったが、5年生では11.6ポイント低かった。「家で学校やじゅくの決められた宿題のほかにも自分で考えた勉強をしている」についての肯定割合は、4年生では県の平均よりも14.5ポイント、5年生で5.2ポイント低かった。	・家庭学習の充実と習慣化に向けた取組を行う。	・3～6年生では宿題のほかにも自主学習ノートを利用した学習に取り組ませ、定期的に提出するよう指導する。 ・取組の具体例を示しながら、学年に応じたやり方を指導する。